


目的

- ・タイラギの大量斃死が発生している有明海北東部漁場において、その一因と考えられる貧酸素水塊の発生状況を把握する。


2

方法 I (連続測定)

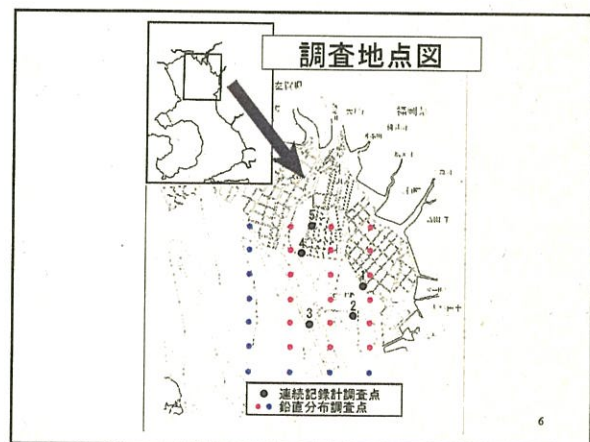
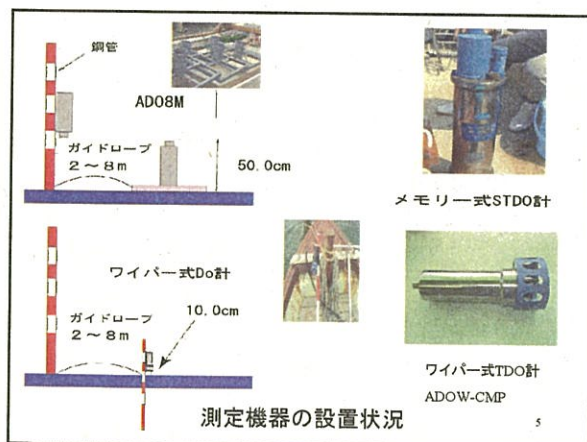
- ・調査期間 2001年6月5日～9月11日
2002年5月7日～9月17日
2003年5月12日～9月18日
- ・調査点 福岡県有明海地先(有明海北東部漁場)
2001年 4点(測定深度:海底上+50cm)
2002、2003年 1点(海底上50cm,+10cm)
- ・測定項目 50cm:水温、塩分、溶存酸素(Do)
10cm:水温、溶存酸素
- ・使用機器 アレック電子(株)製 メモリー式 STDO計
同社製 ワイパー式 TDO計

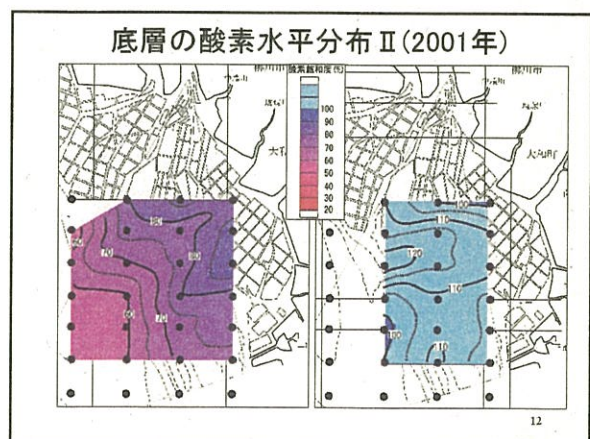
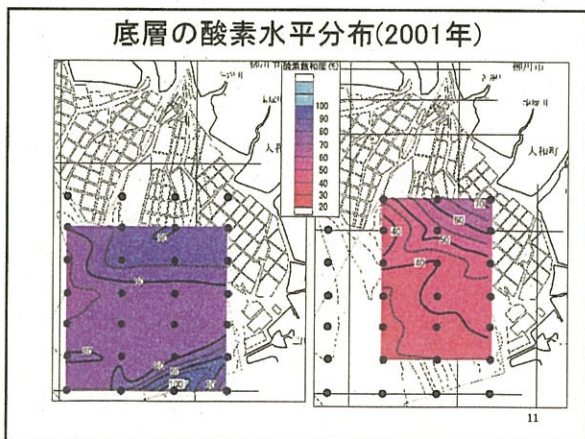
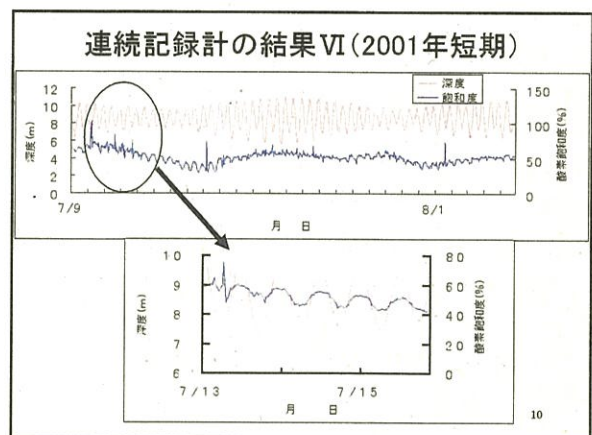
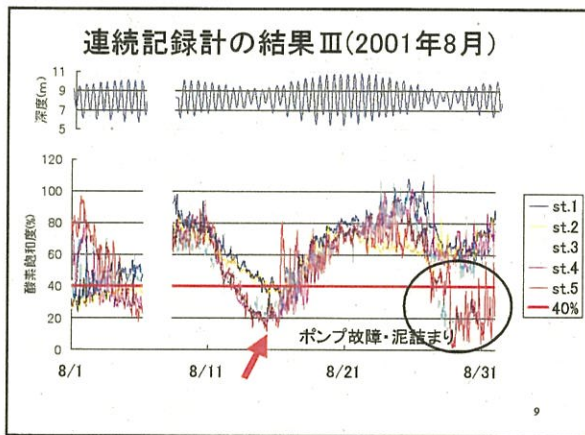
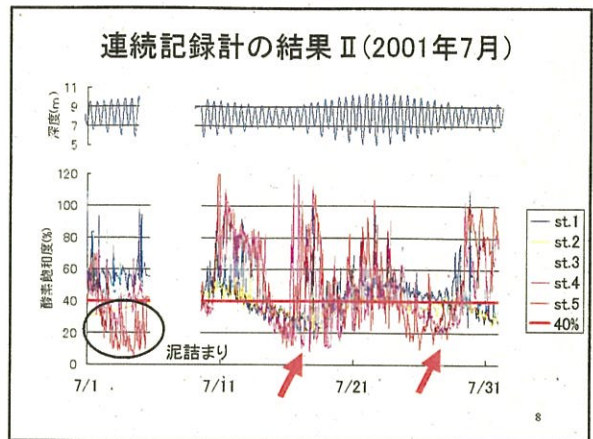
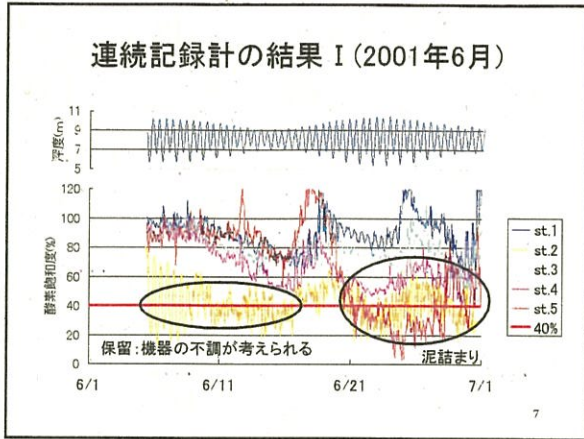
方法 II (鉛直分布測定)

- ・同社製 ADO1050-P 又は ACL1183-PDK
- ・原則として 18点 小潮満潮時
前後2時間以内
- ・表層～底層+50cmの連続測定

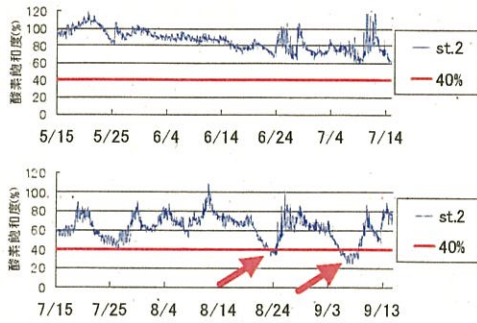


4

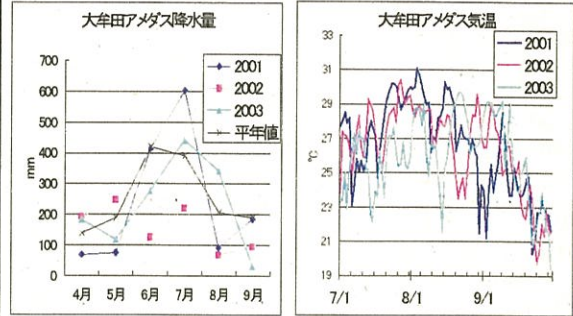




連続記録計の結果V(2003年)



気象条件



まとめ

- ・2001年：酸素飽和度の減少が6月下旬から8月中旬までみられ、すべての調査点で**貧酸素水塊の発生が確認された**。原因として**降水量(多雨)と気温(高温)の影響が考えられた**。
- ・2002年：2001年に比較して**貧酸素水塊の発生が少なかった**。原因として**降水量(小雨)と風況の影響が考えられた**。
- ・2003年：**貧酸素水塊の発生は前2年よりも遅く、8月下～9月上旬に確認された**。原因として**気温(冷夏)の影響が考えられた**。